保護者の皆様へ

感染症から生まれる差別・偏見を どうなくしていくかを考える授業をおこないました

新型コロナウイルス感染症の影響が続く中、学校を含めた日常の生活にも、一部に制限があったり、新しい工夫が求められたりする状況が続いております。
今までとは違う生活形式に変化していく中で、感染症に対する不安や感染者などへの差別・偏見などが社会問題となっているのも事実です。

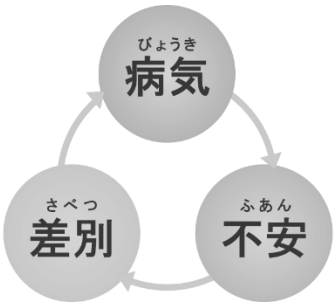
学校でも、感染予防を続けていきますが、新型コロナウイルス感染症には誰もがかかる可能性があることを前提に、身近な誰かが感染してしまったことを考慮した対応も必要となってきています。

そこで今回、日本赤十字社監修の「新型コロナウイルスがもたらす３つの”感染症”」の考え方をもとに、新型コロナウイルス感染症に関する差別・偏見について考える授業を実施しました。

３つの“感染症”とは？

① **“病気”**そのものの感染症
② **“不安”**という気持ちの感染症
③ **“差別・偏見”**という意識の感染症

この３つの感染症が負のスパイラルとしてつながることで、
さらなる感染拡大や、社会問題の深刻化へとつながっていきます。

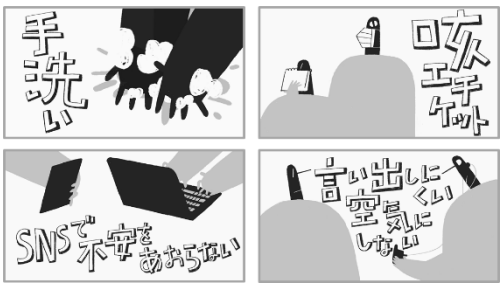


Check 負のスパイラルを断ち切るためにできること

❶ **ウイルスの感染をひろげないために…**
まずは 手洗い・咳エチケットの徹底、３密を避け、
自分自身の感染症予防を徹底しておこなう。

❷ **不安にふりまわされないために…**
情報源のはっきりしないうわさ話はしない・広げないこと

❸ **差別や偏見をひろげないために…**
言い出しにくい空気をつくらないこと



今日の授業でお子さんたちが視聴した動画をこちらで限定公開しています。ぜひ、おうちのかたもご覧になっていただき、感染症に関わる社会問題についてご家庭でも、話し合ってみてください。

文科省公式 YouTube

感染症から差別や偏見が生まれる理由

人は目に見えないウイルスに対する不安やおそれを、目に見えるものにすり替えます。
感染症にかかった人や、特定の地域・職業の人など、実際に目に見える感染症を連想させる人や場所などを避けたり遠ざけたりする気持ちや行動が「差別や偏見」につながっています。

目では見えないウイルスに対する
不安やおそれ

感染症にかかった人、その家族　地域や学校 を
“敵”とみなして　嫌悪の対象とする

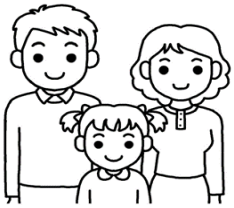
嫌悪の対象を差別して遠ざけることで
つかの間の安心感を得る

新型コロナウイルスを含め、感染症は誰でもかかる可能性があります。
たたかうべき相手は人ではなくウイルスです。感染症への正しい理解と思いやりの心で不安な気持ちを乗りこえましょう。

授業を受けた生徒の声

- この授業がある前までは私はやっぱりコロナにかかってしまった人や医療関係者の人に対して「大丈夫なのかな？」という思いが片隅にありました。でも、今日動画で医療関係の人の思いや３つの感染症を予防するためにどうすればよいかなどを見て、自分の思いも不安や差別の原因となってしまうことがあるのだと思いました。だから動画でもあったような「正しくおそれる」ことが私は最も大切だと感じました。特に「正しく」という部分を大切にしていくことができれば医療関係の人への差別や感染症にかかってしまった人への偏見がなくなっていくと思いました。
- 不確かな情報に惑わされません。ネットなどにはたくさんの情報があふれていて、何が本当なのかわからず混乱してしまいそうになりますが、何も知らないことも不安につながるので、テレビのニュースや新聞をよく見て、すべての情報をうのみにせず、自分で考え、判断していきます。
- 正確な情報を知り、それから不確かな情報を流しません。うわさに流されません。
- 自分自身コロナにかからないように気をつけるだけでなく、みんなで気を付けてマスクをしたり、密にならないように気を付けたいです。また、不安や差別を生まないために、周りのうわさを簡単に信じないで、みんなが安心できるようにしたいです。

ご家庭でもご協力をお願いします。



新型コロナウイルスのニュースを見ながら、「東京から来ないでほしい」「あそこの人、コロナになったらしいわよ。怖いよね。」など何気なく発した言葉を子どもたちは聞いています。

この感染症に対する大人たちの反応は、子どもたちの受け止め方にも大きく影響します。学校でも、今回の授業をはじめ継続して指導していきますが、ご家庭でも子どもたちが感染症への正しい理解のもとに適切に行動できるよう、ご協力よろしくお願いいたします。